

# 文芸欄



## 俳句

### 宝愛句らぶ (中央区)

休耕地一変菜の花咲き乱れ  
春一番コロナ禍越えて社会人  
春一番乱れる髪をおさえお  
日々発見春の芽吹きの遅しく  
菜の花や小鉢の中に春を盛る  
杉屋根に飛び来る火の粉春一番  
採りし後うねに一列菜花かな  
校門にしあわせそうに菜の花が  
晴れやかに若葉に戯む黒羽蝶

和子  
悦子  
千枝子  
道子  
恵子  
丘  
和志  
哲男  
啓臣

梅咲くや過疎の里山人あまた  
ひまわり句会 (北区)  
八十路にて明日に夢あり春うらら  
梅の香や毎週尋ね来孫ひ孫  
ひよどり句会 (北区)  
車窓から日射し背に受け春近し  
しだれ梅咲きてにぎわう過疎の村  
恙なく夫つとめ終え蜜柑むく  
供花の梅咲きて華やぐ仏間なる  
立春や風の尖りも弱くなり  
北斗句会 (北区)  
泣初めのテネシーワルツ友恋し  
春浅しのし餅二本豆と海老  
上り来て海一望の梅見茶屋  
病室の窓開けタイム鬼は外  
荒東風に軋む舳ひの解船  
梅見茶屋杖を頼りの客となる  
とんど絶つ藁灰もろて門口に  
冴え返る警策響く禅の寺  
初雪や龍馬の像のしかめっ面  
見山台新樹会 (北区)  
一夜明け観る山なみの雪化粧  
玄関の雪まだ溶けずそつと足出す  
窓外の雪しんと葛湯飲む  
如月の有馬の客は木浦かな  
老杉に雪芭蕉句碑しずもれる  
児らの居ぬ夕餉小さくおにはいぬ  
こじゅけいの泣き渡る怪姿見ぬ  
時化が来て咲いてよいやら木瓜悩む  
福寿草句会 (須磨区)  
園凍てて遊具は鉄に戻りたる

山下 久一  
辻 寿賀子  
石井 敏子  
塩見 光子  
田中 弘子  
筒井 豊子  
中井 光子  
矢谷登美子  
藤井久美子  
松本 洋子  
久松 礼子  
金行 隆  
岸下 庄二  
脇坂有多子  
黒田 久江  
秋山 弘之  
増田 嗣夫  
丸尾 嘉子  
藤田 和夫  
佐溝満喜子  
高石 勝行  
貞永 弘子  
石本 宏一  
松隈 弘子  
吉田 勲  
松下修二郎

曾孫等の名前難読年賀状  
春日社の千古を今に寒椿  
令和にも忠臣蔵の師走かな  
多間台ときわ会文芸部 (垂水区)  
坂殿しツバメが舞いて応援す  
つばくらめ勝手知ったる軒の家  
ペルシャからシヤムからも来た子猫かな  
ツバメの巣見えぬ所かえさ運ぶ  
二刀流燕返しに打ち勝てり  
きらく句会 (西区)  
ほどほどの男の子に育ち凧上げる  
遠灯り北風頬に舞子坂  
秋夕焼け白寿の女の頬染めて  
えべっさん三年ぶりの大鯛  
秒針の音なく流れ年新

岩田美代子  
上原 綾子  
林 慎一  
中村佳代子  
久下 順司  
山本雄二郎  
樋山 隆夫  
木村 敏博  
森本 珠実  
大橋 治子  
喜田 弘征  
阪本 道子  
田野 湯仙

桂木ひふみ会 (北区)  
まだ達者おまえとおれの赤い糸  
八十路きて未だ糸口さがす旅  
げこの夫息子達もまた酒弱し  
ほころびを繕い続け暮れの坂  
二日酔い朝一冷や水至福時  
筑栄会 (北区)  
雛飾り街おこしの主役です  
白酒を交わすほんのりほほの紅  
渡り鳥旅券持たずにシベリアへ  
親も子もにっこり笑うひな祭り  
ひな祭り遊山箱持ち三姉妹  
ジジババもおひな様出し至福です  
また迷う雄びな雌びなの右左

荒木 宗Q  
京念久美子  
笹岡 淑子  
杉尾 悦子  
大和ケント  
三茶  
かほう  
あきら  
ヨシ  
としこ  
まり子  
まさこ

## 川柳

◆個人  
しゃべろうね笑顔で集う老人会 (東) 辻本美佳子  
日曜の午後夫はコーヒー妻チューハイ (東) 早川キミエ  
妻ばやく旅行ってあんたの実家 (東) 増田 芳之  
ゴルフの夢プレーではなく景色なり (北) かんいち  
車まち礼を知らぬは人の恥 (北) 北野 利一  
スターバックス飲み方知らず見暮す (北) 宮内美栄子  
令和の世も色濃く残る昭和歌謡 (垂) 小高 肇  
初夢や訪れもなく寝正月 (西) 濱頭ミノル

野良猫も日溜まり求めしのび寄る  
寒明ける花鳥草樹風に馴寄る  
空青き洗濯日和春来たる  
うなずけば頻りに説法山笑う  
庭の隅誰に見しよとてすみれ草  
あの角を曲がれば匂う沈丁花  
青葉クラブ (北区)  
春立ちて花舗に横文字増えにけり  
忘却も生きる術とし九十路かな  
ウオーキング逃水追いつた追いつ  
高原ささゆり会 (北区)  
待ち合せ春の宴の始発駅  
イカナゴの重さも嬉し帰り路  
春めくや家建つらしく過疎の里  
ふらここや明日へ漕ぎ出す勇氣満ち

藤田ユイ子  
岡田富早恵  
山口 茂子  
藤井 歌子  
山田 朝子  
栗野 富江  
馬場みつえ  
前川 弘子  
山本 恒雄

梅見茶屋杖を頼りの客となる  
とんど絶つ藁灰もろて門口に  
冴え返る警策響く禅の寺  
初雪や龍馬の像のしかめっ面  
見山台新樹会 (北区)  
一夜明け観る山なみの雪化粧  
玄関の雪まだ溶けずそつと足出す  
窓外の雪しんと葛湯飲む  
如月の有馬の客は木浦かな  
老杉に雪芭蕉句碑しずもれる  
児らの居ぬ夕餉小さくおにはいぬ  
こじゅけいの泣き渡る怪姿見ぬ  
時化が来て咲いてよいやら木瓜悩む  
福寿草句会 (須磨区)  
園凍てて遊具は鉄に戻りたる

丸尾 嘉子  
藤田 和夫  
佐溝満喜子  
高石 勝行  
貞永 弘子  
石本 宏一  
松隈 弘子  
吉田 勲  
松下修二郎

◆個人  
道すがら漂う匂沈丁花  
鴨鍋のぐつぐつ音や皆笑顔  
赤鳥居初午稲荷百度詣  
一对の古雛飾る卒寿なり  
木曾節が唄い初めの退院後  
水温み軽快なるや庭仕事  
曇天のしずかな朝や寒椿  
春寒し未だ換気の続く日々  
街中の音を掻き消すばたん雪  
おぼろ月と見紛う夕日黄砂来る  
まだ春を迎えてうれし卒寿かな  
風光る改札抜ける山の駅  
盆梅に託すあるじの真面目顔  
雪景色朝日をあびて模様替え  
朽ちゆきし寺へ歩の向く寒の道

北田 建樹  
都倉 知子  
福井 悦子  
山上 幸子  
植田きみ子  
竹村 良子  
山田キミ子  
高橋 純子  
福本 和恵  
大上 昭敏  
藤田 恵子  
山田としゑ  
小幡美沙子  
芝田 律子  
寺岡 洋子

宝くじ買って仏間で熟成し  
ハズレが怖い見るのが怖い (北) 清水 久子

## 短歌

### 花山短歌会 (北区)

ピョンピョン跳ねる卯の年は軽やかに残りの人生飛び跳ねようぞ  
着飽きたる友の服までもらい来て物捨てられぬ我の可笑しき  
枯草の中にきこゆる風の声空地のままの二十八年  
米五キロ買える幸せ冬陽差すひと駆歩く今日を諾う  
それぞれに年を重ねて合う友と積もる話を倉敷の町  
故郷に残せし家のはや古りて親しく語る友も逝きたり

清水 恵子  
山田加壽代  
古林 保子  
船崎めり子  
磯元カヨ子  
木下いく子

## ◆個人

小さき芽忘れかけてた鉢植に催花の雨や生命の息吹  
一首すら浮かんで来ずに窓開けて雀一列飽きずに眺むる  
朝の萬月半月みかづきかけてく月の光もらって朝の体操  
池の面に漣かすか揺らめいてゆったり泳ぐ鯉に見惚れる  
節分を過ぎて始まるウグイスの歌の練習春の訪れ  
生き方を変えましたよと絵手紙に赤えのぐでの大きく笑顔  
枯葦の汀をひとり白鷺は磁器のかがやき放つうしろで  
辻ひとつ変えたる散歩住む街を旅人気分でわくわく歩く

(灘) 上田 節子  
(中) 水口 敏子  
(兵) 大賀 清子  
(須) 江口 啓子  
(北) 箱守喜久子  
(北) 眞木香代子  
(西) 増田 當代  
(西) 松浦 妙子

## ◆投稿募集

文芸欄への投稿をお待ち  
しています。皆さまの作  
品をお寄せください。  
作品、住所、電話番号、  
単位クラブ名、お名前を  
必ずご記入ください。  
(投稿先)  
〒650-0016  
神戸市中央区福通3丁目4-1  
KOBESINIAクラブ事務局  
「広報紙〇〇係」  
FAX 341-8524

## ◆募集期間

締切は発行月の前々月15日必着  
です。詳しくは左記の通りです。  
掲載月 投稿募集期間  
1月号 ↓ 9月16日～11月15日  
3月号 ↓ 11月16日～1月15日  
5月号 ↓ 1月16日～3月15日  
7月号 ↓ 3月16日～5月15日  
9月号 ↓ 5月16日～7月15日  
11月号 ↓ 7月16日～9月15日  
たくさんのご投稿をおまちして  
あります。